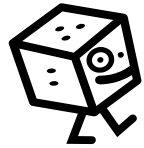


さいころ 大会特集



▶ 第5回白金心理学会大会の報告

去る2012年6月9日（土）に白金心理学会第5回大会を開催しました。大会には、卒業生をはじめ、学部および大学院学生、教職員など156名が、懇親会にも73名の参加があり盛況のうちに終了することができました。

博士号取得者講演として、08PSD生の北風菜穂子さん（明治学院大学非常勤講師）に「デートレイプの判断に影響を及ぼす要因：レイプ支持態度および男女差の検討を中心として」と題する講演を行っていただきました。極めて今日的なテーマであり、また学生にとっては恋愛という最も大きな関心事と関連する問題であるだけに、熱心に聴き入っていました。

パネルディスカッションは、「現代社会とコミュニケーション」をテーマとして、臨床心理学領域から02LPM生の野中稔さん（保健同人社）に「職場におけるコミュニケーション」、基礎心理学領域から98PS生の高野裕治さん（NTTコミュニケーション科学基礎研究所）に「コミュニケーションの起源を探る」、



今年からTea Breakの時間を設けました。飲み物と甘い物で、ちょっと一息。登壇者とも直に話せるチャンスです。

教育・発達心理学領域から98PS生の福島紀子さん（都立羽村特別支援学校）に「学校におけるコミュニケーション」についてお話しいただき、フロアを交えての全体ディスカッションを行いました。コミュニケーションについての多岐にわたる興味深いお話を受けて、多くの参加者



インナー広場「さん・サン」にて、懇親会が開かれました。立場や世代を越えた交流が育まれています。

野末 武義先生(心理学科准教授)



から積極的に質問や意見が出されていたのが非常に印象的でした。

今回は、これまでの大会の精神を踏まえつつ新たな試みも取り入れました。その一つは、研究奨励事業がスタートしたことにより、選考に通過した3件の研究についてのプレゼンテーションが行われました。基礎心理学領域の学部生から2件、臨床心理学領域の大学院生から1件の発表があり、その研究成果は、第6回大会にて発表される予定です。是非ご期待下さい。また、本事業は在学生のみならず、卒業生の研究活動も対象にしていますので、現在研究を行っている方、これから研究を行いたいと考えている方は、是非積極的に応募してください。

新たな試みの二つ目は、写真にもあるようにTea Breakの時間を設けたことです。30分ほどの時間を取り、お茶とお菓子を用意して歓談の時間を設けました。卒業生・在学生と教員、また登壇者との交流など、短い時間でしたが有意義な時間が持てたと大変好評でした。是非、今後の大会でも継続していきたいと思っています。

白金心理学会（白金サイコロゼ）は、卒業生、在学生、教職員をつなぐ心理学部のネットワークです。今後の大会について、「こんなことをやって欲しい」「こんな人の話を聴きたい」など、是非ご意見をお寄せください。

▶ 大学院心理学研究科博士後期課程 博士号取得者講演

「デートレイプの判断に影響を及ぼす要因：レイプ支持態度および男女差の検討を中心として」

北風 菜穂子

本講演では、「二人の内どちらか一方、もしくは両方が相手に対して恋愛感情を持っている関係におけるレイプ」のことをデートレイプと定義しました。レイプとは、強要された性行為、被害者の同意がない性行為、精神的・身体的に無力な状態で行われた全ての性行為を指します。

デートレイプの判断とは、ある状況に対してレイプであると認識するかどうかの判断のことです。デートレイプを初めて聞いた方も

いらっしゃるかも知れません。恋愛関係で強制的な性行為が行われるということに驚きがある方もいらっしゃると思います。しかし内閣府の行った調査（平成23年度男女間における暴力に関する調査）では、一般成人女性のレイプ被害の経験率は7.7%であり、そのうちの76.9%は配偶者など面識のある相手からの被害であることが明らかにされています。面識のない相手からの被害は17.2%ですので、デートレイプも決して少なくないと推測されます。

デートレイプは明らかな性暴力と比較するとグレーゾーンが広く、判断が曖昧になりやすい特徴をもっています。レイプ支持態度といて、被害者を非難するような、被害者に冷淡な態度が社会に広がっていることも指摘されています。デートレイプの認識を高めることは、レイプの発生を防いだり、被害が潜在化するのを防ぐ、再被害のリスクを減らすために重要です。警察への通報や医療機関の受診など適切な対応をとれるようにし、被害者への非難などの二次被害のリスクを減らすという点でも重要です。また2009年5月より裁判員制度が始まり、一般市民も裁判官と一緒に刑事事件の事実認定と量刑の判断を行うことになりました。デートレイプの判断はレイプの被害者自身、被害者の周囲の人々、そして裁判に関わる一般市民にとって



講演者 北風菜穂子さん

今回の講演では、博士論文の内容をわかりやすく伝えるために努力しました。当日は在学生や卒業生などたくさんの方に興味をもって聞いていただけたので良かったです。

発行：
明治学院大学心理学部
白金心理学会 事務局

〒108-8636
東京都港区白金台1-2-37
明治学院大学
心理学部共同研究室内

TEL & FAX:
03(5421)5814
問い合わせ用E-mail:
shinro@psy.meijigakuin.ac.jp

第6回白金心理学会大会
参加申し込み及び住所変更
は下記URLまで

URL: [http://
psy.meijigakuin.ac.jp/
shiropsy/](http://psy.meijigakuin.ac.jp/shiropsy/)

重要な問題であるといえます。私は博士論文において、人々のデートレイプの判断がどのような要因の影響を受けるのか知りたいたいと思ひ、4つの研究を行いました。本日はその一部をお話したいと思ひます。

まずレイプ支持態度がデートレイプの判断に及ぼす影響について検討しました。「レイプはある状況であれば正当化される」、「女性はレイプを防ぐことについて責任がある」といった考えを支持する態度がレイプ支持態度です。Lottes (1998) のレイプ支持態度尺度の得点とデートレイプシナリオに対する判断との関係を分析しました。その結果、レイプ支持態度を強くもっている人は、デートレイプ状況をレイプと判断しない傾向にありました。これは先行研究の結果を支持するもので、デートレイプの判断にはレイプ支持態

度が影響を及ぼしていることが示唆されました。

この結果をふまえ、今度はレイプに関する教育的介入を行い、その前後でデートレイプの判断が変容するかどうかについて明らかにしたいと考えました。その際、裁判員裁判を模したシナリオ実験の手法を用いて、デートレイプの有罪無罪判断、懲役年数の判断を検討することにしました。

大学生70名を対象にデートレイプ事件の概要、検察官による主張、弁護人による主張、裁判長説示を含む裁判シナリオを提示し、加害者は有罪であるか、有罪だとすれば懲役何年が適切かということを判断してもらいました。またレイプ支持態度尺度にも回答してもらいました。その際、実験協力者はレイプに関する2種類の教材と統制教材の組み合わせと順序をかえた5グループにランダムに配置され、教材を読んでから再度同じ事件の有罪無罪判断をしてもらいました。その結果、女性回答者では、レイプに関する教育的介入によってレイプ支持態度が弱まることが示されましたが、加害者に対する有罪無罪の判断、懲役年数の判断が変容するという事は明らかにされませんでした。レイプとは何ら関係のない文章を読んだ人においても、事前テストよりも事後テストのほうが確信をもって有罪と判断するようになったのです。デートレイプの判断をする体験自体の要因が加わった可能性があります。また男性回答者でも有罪無罪の判断、懲役年数の判断に教育的介入が及ぼす影響は明らかにされませんでした。これからさらに研究を進めて、模擬裁判参加における判断のプロセスについて質的な検討をしたり、他の教育的介入の方法と比較したりして検討していきたいと考えています。

レイプ支持態度が判断に及ぼす影響や判断の男女差についての研究成果はデートレイプ予防教育の実践に生かすことができます。今後はこのような予防教育をデートレイプに対する包括的な心理支援システムの中に位置づけていくことが必要であると考えています。

▶ アンケート報告

アンケートで頂いたお声を一部ご報告いたします。

【博士号取得者講演】 今回の講演でデートレイプというものを初めて知った。非常に考えさせられた。膨大な博士論文をコンパクトに伝えて頂き、大変興味深かった。
【パネルディスカッション】 コミュニケーションについて違った視点から話を聞くことができ、大変ためになった。それぞれの職場で、それぞれの心理学が活かされてると知って、面白いと思った。視野が広がった。心理学の可能性が広がった。就職活動にも活かしたい。
【Tea Break】 お菓子とジュースがおいしかった。わきあいあいとしていて、楽しかった。先生や院生の方と話せてよかった。集中力が切れたので、ちょうどいい休憩になった。他学年の方と話したいが、話しかけにくかった。場所が変わるのが少し面倒だった。
【今後について】 ホットな研究、タイムリー、フレッシュな情報を得たい。明学出身者の先輩方の話が聞きたい(臨床現場、一般企業)。産業・社会・組織心理学。認知行動療法。アサーションについて。犯罪に関する講演。大震災のその後。いじめなどの教育領域。テーマが大きいので、もっとフォーカスを絞ったものを。他多数。
皆様から頂いたお声を基にし、ますます充実した大会になるよう、努力して参ります。